

## 日本数学会教育委員会からの報告

### 【教育委員会】

日時：2023. 9. 20 11:00～12:30

場所：東北大学川内北キャンパス講義棟C棟4階C404講義室

出席：9名

委員会開催後のメール等での議論を含め、議事の概要は以下のとおりである。

#### 1. 新委員を含めた自己紹介

新委員を含め簡単な自己紹介が出席者により行われた。今年度から、松村朝雄委員（国際基督教大学）が新委員として加わり、久保英夫理事（北海道大学）が新担当理事として加わった。

#### 2. 次回委員会開催について

回次の委員会も学会初日11時から開催することが了承された。

#### 3. 次回教育シンポジウムについて

当日の委員会では、1時間程度、テーマ案として「「総合的な探究の時間」での探究的な活動について」を主に取り上げ議論したが、その場ではテーマ案の合意は得られず、その後メール等で意見交換すること、また、当日のシンポジウムでのアンケートも考慮することとなった。その後、担当理事、委員長、副委員長の間で議論を重ね、テーマを「数学・数理科学の未来に向けて」とし、数学会主催によりシンポジウムを開催する運びとなった。講演は、西山崇志氏（文部科学省研究振興局基礎・基盤研究課長）、清水扇丈先生（京都大学、日本数学会前理事長）、齋藤政彦先生（神戸学院大学、神戸大学名誉教授）にお引き受けいただけることになった。

#### 4. その他

非学会員の研究発表について、過去の教育委員会の対応について話し合った。

### 【教育委員会主催シンポジウム】

日時：2023. 9. 20 14:00～16:40

場所：東北大学川内北キャンパス講義棟B棟1階B104講義室

今回の教育シンポジウムは、教育委員会と男女共同参画社会推進委員会による共同開催により、「数学・数理科学の教育・研究の現状—次世代人材育成に向けて—」

というタイトルで行われた。司会は、伊藤由佳理 教育委員会副委員長が務めた。シンポジウム開会に際し、鎌田聖一 日本数学会理事長による挨拶があった。続いて、佐野隆志 教育委員会委員長がシンポジウムの趣旨説明を行った。

最初の講演は、坂内健一（慶應義塾大学/理化学研究所）先生による「包括的な教育研究環境の構築と人材育成に向けて～日本の現状と課題～」であった。分野別女性院生比率（他分野は増加傾向；数学分野は横ばい・減少傾向）、10大学数学系女性院生比率（半減以上の減少）、諸外国との比較、また、任期付女性研究者の現状や役職指数男女格差、など資料に基づく説明があった。さらに、世界人権宣言やSDGsにおける人権の在り方、アメリカ教育機会均等法による考え方の紹介があり、「属性」に対する思い込みを含め、無意識のバイアス（ワークライフバランス以上の影響力も）についての理解、また多様性の許容、などについてご講演いただいた。（資料は教育委員会HPにてご覧ください。）「無意識のバイアスーUnconscious Biasーを知っていますか？」（男女共同参画学協会連絡会発行）もご参照ください。

次の講演は、小谷元子（東北大学）先生による「多様化する数理科学への期待と人材育成 DE&I (Diversity, Equity and Inclusion) の立場から」であった。数理科学をめぐる世界の動向（数学・数理科学への期待、予算増、数理系学生数急増；UK, US, アフリカなど）、日本での動き（経産省・文科省による「数理資本主義の時代」、 「数理活用産学連携イニシアチブ」（経団連））などの紹介があった。DE&Iダイバーシティ、エクイティ、インクルージョン（多様性、公正性、包摂性）の考え方にある「ジェンダー公正 (gender equity)」（「ジェンダー平等 (gender equality) 」等に加え、過去の格差・差別の解消も含む概念）の説明があり、アカデミアや教育機関上位職のジェンダーギャップ資料が示された。女性数学者に対するプラットフォーム（大陸、アジアでの組織など。Asia-Oceania Women in Math 2022/08/01-）、東北大学でのダイバーシティ推進（リーダー育成と両立支援）や次世代育成（サイエンスアンバサダー）、研究環境における多様性推進（トップのコミット、ジェンダー多様性、無意識のバイアス）などについても話していただいた。

今回もそれぞれの講演後に質疑応答の時間を設け、更に別途ディスカッションの枠も設定した。前回に続き対面開催であったが、約60名の参加があった。

文責 教育委員会委員長 佐野隆志